

募集班長の模型部屋(第33回)

皆さんこんにちは。前回、秋葉原の模型店に行ったときに、福袋を購入したという話をしましたが、この中に、普段自分では購入しないようなキットが入っていました。意外な出会いって結構ワクワクしますよね。プラモが好きでも、普段から自分の作りやすいキットしか選んでいなかったりするものです。さて今回は、その中から一番興味深かったキットがあったので紹介します。

アインハイツディーゼル（工作車）

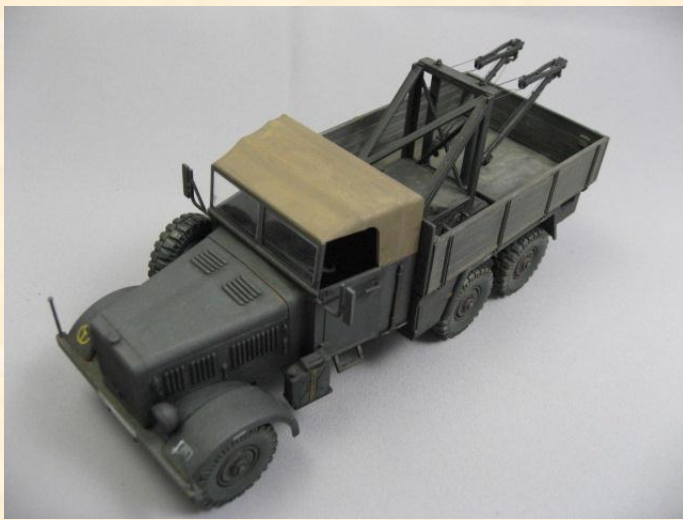
です。



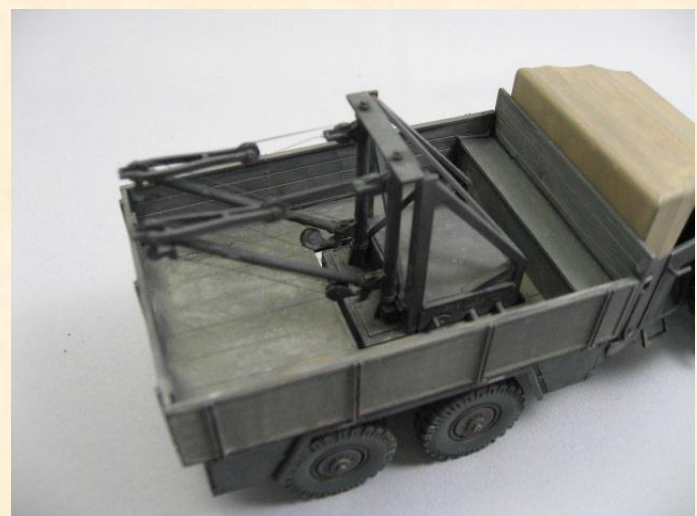
旧ドイツ軍の車両なのですが、普段から大砲や機銃が搭載されたような戦闘車両を作っていると、このようなトラックを作る事はありませんし、購入しようとも思いませんでした。

その意外な出会いが制作意欲を湧かせてくれました。もうひとつ付け加えると福袋の中で一番高価なキットだったこともあります（笑）

IBG（インターナショナルビジネスグループ）モデルというポーランドの会社が発売しているキットで、このキットに出会わなければ、この会社自体も知る事はなかったであろうと思います。完成した姿を見るとそうではないように見えるのですが、とにかく部品が多い！部品の多くは完成後見えなくなってしまう車体下部の足回りの部品で車両の形が出来上がるまでに結構時間を要しました。そして、後部のクレーン！写真では見えない細かいワイヤーを取り付けるのですが、拡大鏡を使用しながら取り付けました。なかなか作り応えのあるキットでした。



まさに戦場の脇役といった雰囲気のある車両です。この車両の詳しい性能は知らないのですが、同じ車体を利用した数々の車両があるみたいです。自衛隊で言えば、73式大型トラックや小型トラック、高機動車の車体を利用した数々の派生型車両があるのと一緒にですね。



車体後部荷台は木製なので、塗装がはがれやすかったり、工兵たちが作業するのに乗り降りすることからかなりの泥汚れがあったであろうと思われ、色調や埃の乗せ方を他の車体金属部と変えています。自衛隊車両も使い込むと木製の部分は色が退色しやすく、隊員が乗り降りする場所は塗装が剥げたり泥汚れが激しくなります。



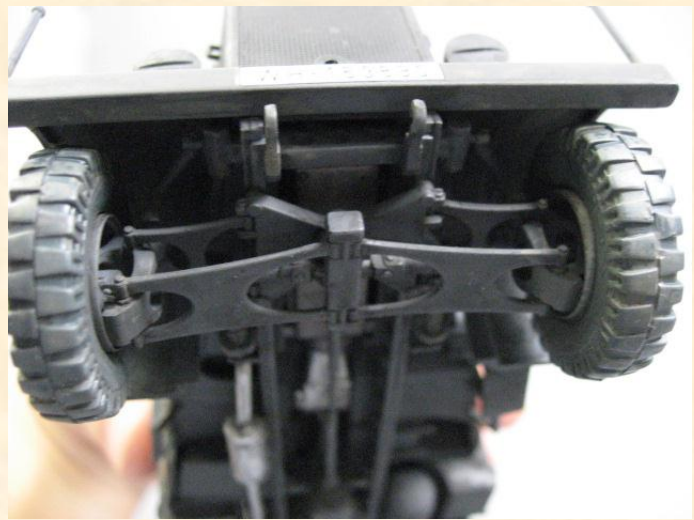
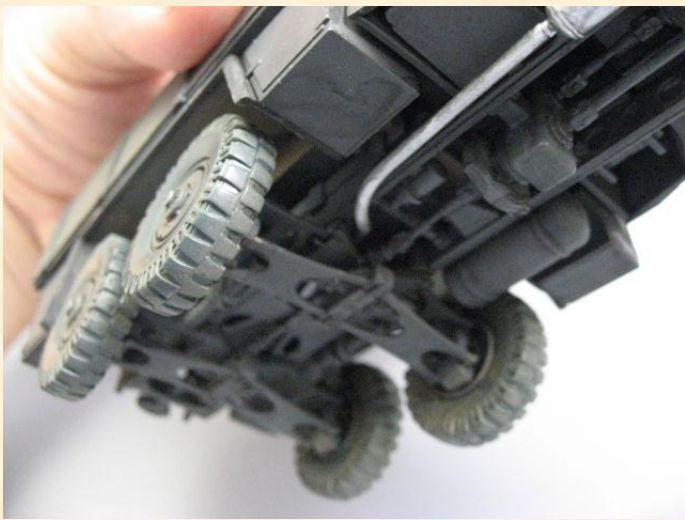
後部のクレーン部分のアップです。滑車をくぐらせて取り付け細いワイヤーは注意が必要でした。気を抜くとすぐに緩みます。かといってキツく取り付けるとクレーン本体が歪んでしまいます。程よいところで瞬間接着剤でワイヤーを固定しつつ作業を進めました。床に泥汚れのほか光沢のあるグレー色でオイル汚れを表現しています。写真では分からないかも。



タイヤハウスの上部には、タイヤの空気圧が表示されています。自衛隊車両と同じ！なんか笑ってしまいました。



部隊マークと車体番号は地味ですけどドイツ車量の雰囲気を出してくれる大切なアクセントです。



最も時間がかかった車体下部です。部品が多く、精密度が上がる反面、強度が落ちてしまい、完成後に外れたりする事があります。一つ一つの部品をしっかりと接着する事が重要です。



車体はアクリルタミヤのジャーマングレーで基本塗装し、タイヤはクレオスのタイヤブラック、キャンバスはアクリルタミヤのカーキです。スミ入れはサクラマツ・マルチ水彩絵の具を使用し、ウェザリングスティックで全体を埃で汚れた状態を表現しました。記の部分は更に平筆でウェザリングスティックを少しずつこすり付けて、色褪せと泥汚れを表現しました。



で、タイガー I 型と並べてみました。ちょっとした戦場のワンシーンが出来上がります。いつかはジオラマにしてみたいですね。飾る場所が出来ればだけど・・・

では、今回はここまで。次回も福袋からのキットを紹介します。

ではまたお付き合いくださいね。